

登録記念物への登録

《登録記念物（名勝地関係）の新登録》 1件

1 ^{いとほらしていえん} 糸原氏庭園【^{てつしとうどり}島根県仁多郡奥出雲町】

江戸時代に松江藩の鉄師頭取を務めた糸原氏の住宅に、近代に造られた庭園で、奥出雲町の中央部に位置する。糸原氏が現在地に居を構えたのは江戸時代で、庭園がほぼ今の形になったのは、大正末期に主屋（登録有形文化財）が新築された頃と考えられる。部分的な改修はあるものの、空間構成は大きく変わることなく現在まで維持されている。

主屋書院の東面には、二つの短冊石を少しずらして平行に並べ、その近くに飛石として臼石を設置している。これは、近世末以降の出雲地方の他の庭園にもよく見られる意匠である。書院の南面には、右側手前に松江市にある茶室「向月亭（こうげつてい）」の写し「為楽庵（いらくあん）」が建ち、書院とつながる。左手には池泉が奥に向かって伸びる。池泉の右は山の斜面となっているが、この斜面を庭園に取り込み、景石、ツツジ類などの低木、石塔等を配している。斜面下部には、池泉へと注ぐ滝が設けられ、その周辺にキャラボクが植栽されている。キャラボクの植栽も出雲地方の庭園の特色の一つと言える。

糸原氏庭園は出雲地方に大正末期に造られた庭園で、地域の特色ある意匠や植栽が見られ、造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。